

基準緩和認定実例(実証)

○全体概要

実証事業者	国立大学法人東海国立大学機構※名古屋大学(実証主体:東急株式会社)
実証期間	2020年12月17日～25日
実証実験の概要	<p>静岡県伊豆地域は、観光地としては近年さまざまな課題が顕在化してきており、特に公共交通を使用して観光する場合、バスやタクシーなど二次交通の担い手不足による利便性の低下が顕著になってきている。今回は、二次交通を利用した観光の利便性向上を図ることを目的に実施している観光型MaaS「Izuko」と連携した遠隔型自動運転モビリティの実証実験を実施した。</p> <p>将来的に一人のオペレーターが複数台の自動運転車両を運行管理する効率的な移動サービスの構築を目指し、伊豆高原駅付近に複数台の自動運転車両を遠隔監視・操縦可能なコントロールセンターを設置し、車両の遠隔監視・操縦を実施した。</p>

○実証の概要

走行場所	静岡県伊東市、伊豆高原駅周辺地域	
走行環境条件	走行空間	混在空間(生活道路)
	交通環境	右折あり/左折あり・信号なし
	走行時間帯	日中(10:00～16:00)
	天候	悪天候時は運行中止
	実証時最高速度	14km/h
インフラとの連携の内容	なし	
車両内外の保安要員の有無	有り	
保安要員有りの場合、配置場所	遠隔運転時:車両助手席および遠隔運転席 自動運転時:車両運転席	

<走行空間の写真等>



○車両の基礎情報

ベース車両	TAJIMA NAO 8J
システムの類型	遠隔システム搭載車
最高速度	19km/h
定員	8名
立席・着席	着席

<車両の外観写真等>



○主な基準緩和項目と代替の安全確保策とその考え方

<p>保安基準第44条第4項、第5項、第6項 (後写鏡等)</p>	<p>本条では、運転者(車両内)が運転者席から、後写鏡等により左右外側所定の後方距離までの交通状況等の確認ができること、及び直接または後写鏡、その他の装置により所定の視野(車両直前、直左の障害物確認視野)が得られることと定めている。 その代替として、本車両では、複数の車載カメラを用いて、後方並びに規定の視野範囲を撮像し、これを通信により遠隔運転者用モニタに表示し、上記条件を確保する。</p>
---------------------------------------	---



遠隔運転者 モニタ表示 <A>
(運転常時映像)



遠隔運転者 モニタ表示
(運転補助 広視野映像)

○基準に適合させるために実施した改造事例

なし

<改造箇所の写真>

○ヒヤリ・ハット事例(発生内容、原因、対策等)

なし

<ヒヤリ・ハット状況の写真や図など>